

平成 26 年度大牟田市自然環境調査報告書

四ヶ地区 調査



四ヶ地区の自然

平成 27 年 3 月
大 牟 田 市

はじめに

本市では、自然環境の保全を重要な課題として本市の自然環境の現状や貴重な動植物等の生息状況を調査し、自然環境保全の基礎資料とするとともに、市民の啓発に資するために自然環境調査を行っています。

本報告書は、平成 26 年度に、四ヶ地区の自然環境調査を実施したものを取りまとめたものです。

目 次

1	調査目的	1
2	調査実施の期間	1
3	調査区域	1
4	調査分野	1
5	調査方法	2
6	調査結果	3
(1)	植生・植物	3
(2)	鳥類	11
(3)	昆虫類・クモ類	13
(4)	は虫類・両生類	19
(5)	ほ乳類	20
(6)	魚介類	21
7	まとめ	22

1 調査目的

本調査は、自然環境保全の基礎資料とするとともに、市民・事業者等の啓発に資するため、実施した。

2 調査実施の期間

以下の日程で実施した。

植生・植物・・・・・・・・・・平成 26 年 10 月 22 日
鳥類・・・・・・・・・・平成 26 年 10 月 23 日
昆虫・クモ類・・・・・・・・・・平成 26 年 10 月 23 日
は虫類・両生類・・・・・・・・・・平成 26 年 10 月 12 日
ほ乳類・・・・・・・・・・平成 26 年 10 月 28 日
魚介類・・・・・・・・・・平成 26 年 11 月 20 日

3 調査区域

本市における自然環境調査は、平成 11 年度から 13 年度にかけて全市的な調査が実施されて以来すでに 10 年以上経過している。

これ以降、四ヶ地区の自然環境調査は実施されていない。このようなことから本調査では、四ヶ地区の現状を把握するため、図 1 の地図の赤線の枠内を調査区域と定め、調査を行った。

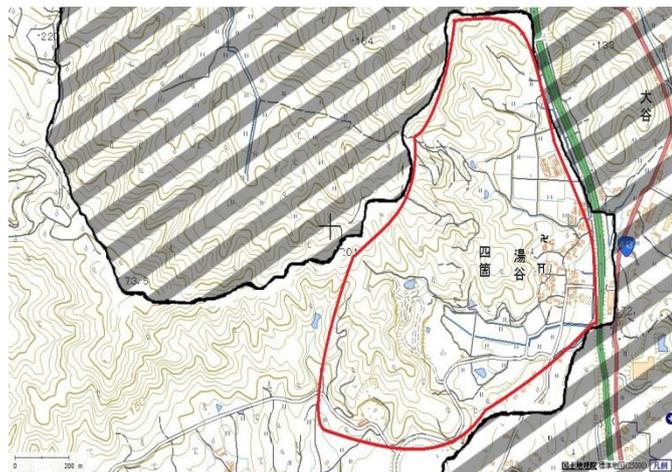


図 1. 四ヶ地区

4 調査分野

調査対象分野は、表 1 の各分野とし、担当専門委員が調査を実施した。

表 1. 調査分野

分 野	担当専門委員	分 野	担当専門委員
植生・植物	中島 健晴	は虫類・両生類	松永 公幸
鳥 類	永江 和彦	ほ 乳 類	尾形 健二
昆虫類・クモ類	中嶋 秀利	魚 介 類	嶺井 久勝

5 調査方法

調査は現地調査を基本とし、必要に応じて補足調査として聞き取り調査や文献調査等を行うこととした。

確認された生物種は分野ごとに一覧表にまとめた。表中備考欄に記載した記号の意味は以下のとおり。

表2. 表中で使用した記号の意味

記号	用語	意味
I類	絶滅危惧I類	絶滅の危機に瀕している種。
IA類	絶滅危惧IA類	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。
IB類	絶滅危惧IB類	IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。
II類	絶滅危惧II類	絶滅の危険が増大している種。
準絶	準絶滅危惧	存在基盤がぜい弱（弱い）な種で、生息条件の変化によっては、「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。
(国)	環境省レッドリスト	環境省レッドリストを示す。
(県)	福岡県レッドデータ	福岡県レッドデータを示す。
特外	特定外来生物	外来生物（海外起源の外来種）であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるもので、国が指定したもの。
植生植物のみ	木	木本類 「木本類」の略。木本類とは、形成層が発達し木質化するもので、おおまかにいえば年輪を有するもの。ただし、例外として竹の仲間やつる性のもので年輪が無く、形成層が無くとも木本とするものがある。 ⇨草本類は、形成層が無い、あるいはあまり発達せず木質化しないもの。「木」の記載がないものは全て草本類。 つる性植物については、木質化するものを木本類とし、それ以外を草本類とした。 竹については、木本類とはしなかった。
	外	外来植物 人為的に本来生息しない地域に持ち込まれた植物。国内に移入された年代は諸説あるため統一された学会の見解は無いが、ここでは史前帰化と思われるものは含めないこととした。
	逸	植栽逸出 人為的に植栽されたものが、野生化して繁殖したものの。一般的に外来植物のうち意図的に持ち込まれたものをさす。

6 調査結果

(1) 植生・植物

合計 17 科 36 種のシダ植物、88 科 363 種の種子植物が確認された。

表 3. 植物の調査結果

分類群		四ヶ地区	
		科	種
シダ植物		17	36
種子植物	裸子植物	1	1
	被子植物	双子葉類	181
		離弁花類	52
	合弁花類	22	
単子葉類	13	87	
合計		105	399

表 4. 確認された主な野生生物（植物）

和名	種類
 <p>カラタチバナ</p>	<p>福岡県絶滅危惧 I B 類</p> <p>『福岡県植物誌』（1975）ではやや稀少と記録されている。個体数が減少傾向にあると考えられる。</p> <p>危機要因：森林伐採、遷移進行</p> <p>種の概要：暖温带林に生える常緑低木</p> <p>（出典：福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック2011-）</p>
 <p>シバハギ</p>	<p>福岡県絶滅危惧 I B 類</p> <p>『福岡県植物目録』（1952）では「やや普通」、『福岡県植物誌』（1975）では「やや稀」とされているが、現在では稀な植物となっている。里山の草地が減少したことに伴い、減少した。</p> <p>危機要因：遷移進行</p> <p>種の概要：草地に生える多年草</p> <p>（出典：福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック2011-）</p>

表5-1. 確認された植物

No. 1

科名	種名 (和名)	備考
シダ植物 (17科36種)		
イノモトソウ科	アマクサシダ	
	イノモトソウ	
	オオパノハチジョウシダ	
イワデンドコ科	イヌワラビ	
イワヒバ科	イヌカタヒバ	国内帰化逸出
	コンテリクラマゴケ	外
	ヒメクラマゴケ	
ウラジロ科	ウラジロ	
	コシダ	
ウラボシ科	ノキシノブ	
	マメツタ	
	ミツデウラボシ	
オンシダ科	イノデ	
	オオカナワラビ	
	オニカナワラビ	
	トウゴクシダ	
	ベニシダ	
	ヤブソテツ	
	ヤマイタチシダ	
コバノイシカグマ科	フモトシダ	
	ワラビ	
シシガシラ科	オオカグマ	
	シシガシラ	
ゼンマイ科	ゼンマイ	
チャセンシダ科	トラノオシダ	
トクサ科	スギナ	
ハナヤスリ科	フユノハナワラビ	
ヒカゲノカズラ科	トウゲシバ	
ヒメシダ科	ゲジゲジシダ	
	ヒメワラビ	
	ホシダ	

科名	種名 (和名)	備考
シダ植物 (つづき)		
ヒメシダ科	ヤワラシダ	
フサシダ科	カニクサ	
ホウライシダ科	イワガネソウ	
	タチシノブ	
ホングウシダ科	ホラシノブ	
種子植物 (88科363種)		
└うち、裸子植物 (1科1種)		
スギ科	スギ	木
└うち、被子植物 (87科362種)		
└└うち、双子葉類 (74科275種)		
└└└うち、離弁花類 (52科181種)		
アオイ科	アメリカキンゴジカ	外
アカザ科	アリタソウ	外
アカバナ科	コマツヨイグサ	外
	チョウジタデ	
	ミズタマソウ	
	メマツヨイグサ	外
アケビ科	アケビ	木
	ミツバアケビ	木
	ムベ	木
アブラナ科	イヌガラシ	
	スカシタゴボウ	
	セイヨウカラシナ	外
	タネツケバナ	
	ナズナ	
イラクサ科	アオミズ	
	イワガネ	木
	カラムシ	
	コアカソ	木
ウコギ科	ヤブマオ	
	カクレミノ	木

表5-2. 確認された植物

No. 2

科名	種名 (和名)	備考
┌──離弁花類 (つづき)		
ウコギ科	キツタ	木
	セイヨウキツタ	外・木
	タラノキ	木
	ヤツデ	木
ウリ科	アマチャヅル	
	カラスウリ	
	キカラスウリ	
	スズメウリ	
ウルシ科	ヌルデ	木
	ハゼノキ	木
	ヤマウルシ	木
オシロイバナ科	オシロイバナ	外・逸
オトギリソウ科	コケオトギリ	
カエデ科	イロハカエデ	木
カタバミ科	カタバミ	
	ムラサキカタバミ	外・逸
キンボウゲ科	キツネノボタン	
	センニンソウ	木
	ヒメウズ	
	ボタンヅル	木
クスノキ科	イヌガシ	木
	カゴノキ	木
	クスノキ	木
	シロダモ	木
	タブノキ	木
	ヤブニッケイ	木
	ヤマコウバシ	木
グミ科	ナワシログミ	木
クワ科	イタビカズラ	木
	イヌビワ	木
	カジノキ	木

科名	種名 (和名)	備考
┌──離弁花類 (つづき)		
クワ科	カナムグラ	
	クワ	木
	クワクサ	
	ツルコウゾ	木
	ヒメイタビ	木
	ヒメコウゾ	木
ケシ科	ムラサキケマン	
ザクロソウ科	ザクロソウ	
シナノキ科	カラスノゴマ	
	ラセンソウ	
スベリヒユ科	スベリヒユ	
	ヒメマツバボタン	外
セリ科	セントウソウ	
	チドメグサ	
	マツバゼリ	外
	ミツバ	
センダン科	センダン	木
センリョウ科	センリョウ	木
タデ科	アレチギンギシ	外
	イタドリ	
	イヌタデ	
	ギンギシ	
	シンミズヒキ	
	スイバ	
	ボントクタデ	
	ママコノシリヌグイ	
	ミズヒキ	
	ミゾソバ	
	ヤナギタデ	
ツツラフジ科	アオツツラフジ	木
ツバキ科	サカキ	木

表5-3. 確認された植物

No. 3

科名	種名 (和名)	備考
└─離弁花類 (つづき)		
ツバキ科	チャノキ	木
	ヒサカキ	木
	ヤブツバキ	木
ツリフネソウ科	ツリフネソウ	
トウダイグサ科	アカメガシワ	木
	エノキグサ	
	オオニシキソウ	外
	コニシキソウ	外
	コバンノキ	木
	コミカンソウ	
	ショウジョウソウ	外
	ナンキンハゼ	木・逸・外
	ハイニシキソウ	外
	ヒメミカンソウ	
ヒメユズリハ	木	
ブラジルコミカンソウ	外	
ドクダミ科	ドクダミ	
トベラ科	トベラ	木
ナデシコ科	ウシハコベ	
	オランダミミナグサ	外
	ノハラツメクサ	外
	ノミノフスマ	
ニシキギ科	コマユミ	木
	ツルウメモドキ	木
	マサキ	木
ニレ科	アキニレ	木
	エノキ	木
	ムクノキ	木
バラ科	オヘビイチゴ	
	カナメモチ	木
	カマツカ	木

科名	種名 (和名)	備考
└─離弁花類 (つづき)		
バラ科	クサイチゴ	木
	クマイチゴ	木
	シャリンバイ	木
	ダイコンソウ	
	テリハノイバラ	木
	ナガバモミジイチゴ	木
	ナワシロイチゴ	木
	ノイバラ	木
	ビロードイチゴ	木
	フユイチゴ	木
	ヤブヘビイチゴ	
	ヤマザクラ	木
ヒシ科	コオニビシ	
ヒユ科	イノコヅチ	
	ヒナタイノコヅチ	
	ホソアオゲイトウ	外
	ホソバツルノゲイトウ	外
	ホナガイヌビユ	外
フウロソウ科	アメリカフウロ	外
	ゲンノショウコ	
ブドウ科	ツタ	木
	ノブドウ	木
	ヤブガラシ	
ブナ科	アラカシ	木
	クヌギ	木
	クリ	木
	コナラ	木
	シリブカガシ	木
	ツブラジイ	木
ベンケイソウ科	コモチマンネングサ	
ボロボロノキ科	ボロボロノキ	木

表5-4. 確認された植物

No. 4

科名	種名 (和名)	備考
┌──離弁花類 (つづき)		
マメ科	アレチヌスビトハギ	外
	クサネム	
	クズ	
	ゲンゲ	外・逸
	コマツナギ	木
	シバハギ	木・(県)IB類
	シロツメクサ	外・逸
	スズメノエンドウ	
	ツルマメ	
	ナツフジ	木
	ヌスビトハギ	
	ネコハギ	
	ネムノキ	木
	ノアズキ	
	ノササゲ	
	メドハギ	
	ヤハズエンドウ	
	ヤハズソウ	
	ヤブツルアズキ	
	ヤブハギ	
ヤブマメ		
ヤマハギ	木	
ヤマフジ	木	
マンサク科	イスノキ	木
ミカン科	カラスザンショウ	木
ミズキ科	アオキ	木
ミソハギ科	ナンゴクヒメミソハギ	外
	ホソバヒメミソハギ	外
ミツバウツギ科	ゴンズイ	木
メギ科	ナンテン	木
モチノキ科	クロガネモチ	木

科名	種名 (和名)	備考
┌──離弁花類 (つづき)		
モチノキ科	ナナミノキ	木
ヤマゴボウ科	ヨウシュヤマゴボウ	外
ユキノシタ科	ウツギ	木
	コガクウツギ	木
	ノリウツギ	木
	ユキノシタ	
┌──うち、合弁花類 (22科 94種)		
アカネ科	アカネ	
	カギカズラ	木
	キクムグラ	
	ヒメヨツバムグラ	
	ヘクソカズラ	
	ヤエムグラ	
エゴノキ科	エゴノキ	木
オオバコ科	オオバコ	
	ツボミオオバコ	外
ガガイモ科	ガガイモ	
カキノキ科	カキノキ	木
キキョウ科	アゼムシロ	
	サイヨウシャジン	
キク科	アキノノゲシ	
	アメリカセンダングサ	外
	アメリカタカサブロウ	外
	ウラジロチチコグサ	外
	オオアレチノギク	外
	オオオナモミ	外
	オオジシバリ	
	オオハルシャギク	外・逸
	オオブタクサ	外
	オカダイコン	
ガンクビソウ		

表5-5. 確認された植物

No.5

科名	種名 (和名)	備考
┌──合弁花類 (つづき)		
キク科	キツネアザミ	
	キバナコスモス	外
	コシロノセンダングサ	外
	コセンダングサ	外
	サケバヒヨドリ	
	シロバナタンポポ	
	セイトカアワダチソウ	外
	セイヨウタンポポ	外
	ダンドボロギク	外
	チチコグサモドキ	外
	ツワブキ	
	ニガナ	
	ノアザミ	
	ハハコグサ	
	ヒメジョオン	外
	ヒメムカシヨモギ	外
	ヒヨドリバナ	
	フキ	
	ベニバナボロギク	外
	マメカミツレ	外
ヨメナ		
ヨモギ		
キツネノマゴ科	キツネノマゴ	
	シロバナキツネノマゴ	
キョウチクトウ科	テイカカズラ	木
クマツヅラ科	アレチハナガサ	外
	クサギ	木
	ボタンクサギ	木・外
	ヤブムラサキ	木
ゴマノハグサ科	アゼトウガラシ	
	ウリクサ	

科名	種名 (和名)	備考
┌──合弁花類 (つづき)		
ゴマノハグサ科	オオイヌノフグリ	外
	スズメノトウガラシ	
	トキワハゼ	
サクラソウ科	コナスビ	
シソ科	アキノタムラソウ	
	イヌコウジュ	
	カキドオシ	
	キランソウ	
	トウバナ	
	ホトケノザ	
スイカズラ科	レモンエゴマ	
	キダチニンドウ	木
	コバノガマズミ	木
	スイカズラ	木
ツツジ科	ニワトコ	木
	シャシャンボ	木
ナス科	ネジキ	木
	オオイヌホオズキ	外
	ハダカホオズキ	
	ヒヨドリジョウゴ	
ハイノキ科	ヒロハフウリンホウズキ	外
	クロキ	木
ヒルガオ科	ミミズバイ	木
	コヒルガオ	
	ホシアサガオ	外
ムラサキ科	マメアサガオ	外
	マルバルコウ	外
	ルコウソウ	外
ムラサキ科	キュウリグサ	
	チシャノキ	木
	ハナイバナ	

表5-6. 確認された植物

No. 6

科名	種名 (和名)	備考
└─合弁花類 (つづき)		
モクセイ科	トウネズミモチ	外・逸・木
	ネズミモチ	木
	ヒイラギ	木
ヤブコウジ科	イズセンリョウ	木
	カラタチバナ	木・(県) I B
	マンリョウ	木
	ヤブコウジ	木
リョウブ科	リョウブ	木
└─うち、単子葉類 (13科87種)		
アヤメ科	シャガ	外
	ヒメヒオウギズイセン	外・逸
イネ科	アキノエノコログサ	
	アキメヒシバ	
	アシ	
	アシボソ	
	アゼガヤ	
	アブラスキ	
	イタチガヤ	
	イヌビエ	
	エノコログサ	
	オオクサキビ	外
	オカメザサ	逸
	オヒシバ	
	カゼクサ	
	キシウズズメノヒエ	外
	ギョウギシバ	
	キンエノコロ	
	ケイヌビエ	
	コスズメガヤ	外
	コツキンエノコロ	
	コブナグサ	

科名	種名 (和名)	備考
└─単子葉類 (つづき)		
イネ科	ササガヤ	
	ササクサ	
	サヤヌカグサ	
	シナダレスズメガヤ	外
	シバ	
	シマスズメノヒエ	外
	ジュズダマ	
	ススキ	
	スズメノカタビラ	
	セイバンモロコシ	外
	タイヌビエ	
	タチスズメノヒエ	外
	チガヤ	
	チカラシバ	
	チヂミザサ	
	ニワホコリ	
	ヌカキビ	
	ネズミノオ	
	ハチク	
	ヒメアシボソ	
	ヒメイヌビエ	
	マコモ	
	マダケ	
	ムラサキネズミノオ	
	メダケ	
	メヒシバ	
	メリケンカルカヤ	外
モウソウチク		
カヤツリグサ科	アイダクグ	
	アゼガヤツリ	
	カヤツリグサ	

表5-7. 確認された植物

No. 7

科名	種名 (和名)	備考
└─単子葉類 (つづき)		
カヤツリグサ科	クグガヤツリ	
	クロテンツキ	
	コゴメガヤツリ	
	シラスゲ	
	タマガヤツリ	
	ナキリスゲ	
	ハマスゲ	
	ヒデリコ	
ヒメクグ		
カンナ科	カンナ	外・逸
サトイモ科	カラスビシャク	
	セキショウ	
ショウガ科	ミョウガ	
ツユクサ科	カロライナツユクサ	外
	ツユクサ	
	マルバツユクサ	
	ヤブミョウガ	
ヒガンバナ科	タマスダレ	外
	ヒガンバナ	
ミズアオイ科	ホテイアオイ	外・逸
ヤシ科	シュロ	外・木
ヤマノイモ科	オニドコロ	
	カエデドコロ	
	ニガカシュウ	
	ヤマノイモ	
ユリ科	サルトリイバラ	木
	ジャノヒゲ	
	ツルボ	
	ナガバジャノヒゲ	
	ノビル	

科名	種名 (和名)	備考
└─単子葉類 (つづき)		
ユリ科	ホウチャクソウ	
	ヤブカンゾウ	
	ヤブラン	
ラン科	コ克蘭	

(2) 鳥類

6目 15科 21種が確認された。

表 6. 確認された主な野生生物 (鳥類)

和名	種類
 <p data-bbox="427 1137 523 1167">ハイタカ</p>	<p data-bbox="753 495 979 524">国：準絶滅危惧(N T)</p> <p data-bbox="753 573 1369 680">県内では9月～4月にかけて冬季の記録が多い。また秋と春の渡りの時期に特によく見られる。県内は重要な越冬地として、これからの保全が大切であると思われる。</p> <p data-bbox="753 692 1369 882">形態:全長雄約30～雌約40cm。翼開張雄約60.5～雌約79cm。雄成鳥は上面が暗青灰色で胸から腹にかけてオレンジ色の横しまがある。雌成鳥は上面が雄成鳥より褐色を帯び、胸から腹にかけて黒灰色の横しまがある。飛んでいるとき、翼はやや幅広く、尾は長く見える。</p> <p data-bbox="753 891 1369 1122">生態:移動するときは、羽ばたきと滑翔^{かつしやう}を繰り返して直線的に飛ぶ。高い木の上や枝先にとまり、獲物を見つけると飛び立って足の爪で小鳥類や小型獣類を捕獲する。国内の繁殖地では、留鳥であるものも多いが、冬季に餌の少なくなる地域のもののは平地や農耕地へ移動したり、より南下しているものと思われる。</p> <p data-bbox="753 1131 1369 1200">(出典:福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック2001-)</p>
 <p data-bbox="277 1906 663 1935">サンショウクイ (写真出展 Wikipedia)</p>	<p data-bbox="753 1232 1369 1261">国：絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 県：絶滅危惧ⅠA類 (RDB2011)</p> <p data-bbox="753 1310 1369 1541">福岡県では1980年代までは繁殖が確認されていたが、近年は繁殖期の確認情報がない。全国的に繁殖場所での確認例は減っており、生息環境の変化が見られない場所でも記録されなくなっていることから、越冬地での森林伐採などが影響しているという説もある。また、餌となる昆虫類の変化が影響を与えている可能性も考えられる。</p> <p data-bbox="775 1550 986 1579">危機要因：植生変化</p> <p data-bbox="753 1588 1369 1818">種の概要：アジアの極東地域に分布する。日本では本州、四国、九州に夏鳥として渡来し、東南アジアで越冬する。平地から山地の落葉樹林に生息し、樹上で昆虫類を捕食する。巣は地上から数m以上の、大きな木の横枝に作り、外部にウメノキゴケをクモの巣で貼り付ける。群れで渡りをする。</p> <p data-bbox="753 1827 1369 1897">(出典:福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック2011-)</p>

表7. 確認された鳥類

科名	種名 (和名)	備考
キツツキ目	(1科1種)	
キツツキ科	アオゲラ	上空飛翔 ^{ひしゅう} を目視で確認
コウノトリ目	(1科2種)	
サギ科	アオサギ	
	ダイサギ	
スズメ目	(10科14種)	
アトリ科	アトリ	
	カワラヒワ	
カラス科	ハシブトガラス	
	ハシボソガラス	上空飛翔 ^{ひしゅう} を目視で確認
サンショウクイ科	サンショウクイ	ⅠA類(県)、Ⅱ類(国)
セキレイ科	ハクセキレイ	
	キセキレイ	
ハタオリドリ科	スズメ	
ヒタキ科(ツグミ亜科)	シロハラ	
	ジョウビタキ	
ヒヨドリ科	ヒヨドリ	
ホオジロ科	ホオジロ	
メジロ科	メジロ	
モズ科	モズ	
タカ目	(1科2種)	
ワシタカ科	ハイタカ	準絶(国) 上空飛翔 ^{ひしゅう} を目視で確認
	トビ	上空飛翔を目視で確認
チドリ目	(1科1種)	
シギ科	クサシギ	
ハト目	(1科1種)	
ハト科	キジバト	

(3) 昆虫類・クモ類

9目46科104種の昆虫類、8科18種のクモ類が確認された。

表8. 確認された主な野生生物（昆虫類・クモ類）

和名	種類
 <p data-bbox="403 1048 587 1077">ツماغロキチヨウ</p>	<p data-bbox="815 501 1394 530">国：絶滅危惧ⅠB類 県：絶滅危惧Ⅱ類(RDB2011)</p> <p data-bbox="791 539 1394 848">1902年に北九州市で採集された記録が本県最初の記録である。1950～70年代は県内全域で普通にみられ、たとえば福岡市内の空き地、河川敷などでしばしば豊産した。しかし、1980年代から明らかに減少しはじめ、90年代には正式の記録が急減した。食餌植物であるカワラケツメイの壊滅的減少と本種の衰亡は連動していると考えられる。日本産蝶類都道府県別レッドリスト(三訂版)(2009)でも「絶滅危惧Ⅱ類」とされている。</p> <p data-bbox="815 857 1305 887">形態：前翅長は約19mm(夏型)～21mm(秋型)。</p> <p data-bbox="791 896 1394 1126">生態：幼虫の食草はマメ科のカワラケツメイ。成虫は訪花習性が著しく、マメ科、カタバミ科、キク科、スミレ科など多数の訪花植物が報告されている。雄には吸水行動も見られるが、キチヨウのように獣糞などへの吸汁は見られない。多化性成虫越冬で、季節的変異(夏・秋型)が著しい。空き地、河原など開けた環境を好む。</p> <p data-bbox="815 1135 1394 1207">(出典：福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック2001-)</p>
 <p data-bbox="368 1655 624 1684">チャイロマメゲンゴロウ</p>	<p data-bbox="791 1256 1394 1525">他の地域ではあまり多い種ではないが、福岡県内ではよく見かける。他のマメゲンゴロウ類と共通して頭部・胸部は黒く、上翅は茶色。大きさが同じくらいで形がよく似たクロズマメゲンゴロウとは、本種の方がより上翅が明るい茶色で、横から見たときに扁平である点で区別がつく。また、マメゲンゴロウとは背面の体色は似ているものの、本種の方がひと回り大きいことで区別がつく。</p> <p data-bbox="815 1534 1050 1563">生息地：ため池</p> <p data-bbox="815 1572 1094 1601">分布：本州～九州</p> <p data-bbox="815 1610 1305 1639">特徴：頭部・胸部は黒色で上翅は茶色</p> <p data-bbox="815 1648 1166 1677">生息環境：植物の豊富な環境</p> <p data-bbox="815 1686 1150 1715">(出典：福岡県の水生昆虫図鑑)</p>

表9-1. 確認された昆虫類・クモ類

No. 1

科名	種名 (和名)	備考
アミメカゲロウ目	(1科1種)	
ウスバカゲロウ科	ウスバカゲロウ	すり鉢の巣穴を確認(アリジゴク)
カマキリ目	(2科4種)	
カマキリ科	オオカマキリ	
	コカマキリ	
	ハラビロカマキリ	
ヒメカマキリ科	ヒメカマキリ	小型のカマキリ
カメムシ目	(11科18種)	
アオバハゴロモ科	アオバハゴロモ	
アブラムシ科	セイトカアワダチソウヒゲナガアブラムシ	セイトカアワダチソウの花に群れている
	ヤノイスアブラムシ	イスノキの葉に虫コブ(虫嬰)をつくる。
アメンボ科	アメンボ	
	シマアメンボ	
	ヒメアメンボ	
カメムシ科	アオクサカメムシ	
	シラホシカメムシ	
キクグンバイムシ科	キクグンバイ	
セミ科	クマゼミ	抜け殻を確認し同定する。
ホソヘリカメムシ科	ホソヘリカメムシ	
	ホオズキカメムシ	
マキバサシガメ科	ハネナガマキバサシガメ	
	ヨコヅナサシガメ	
マツモムシ科	コマツモムシ	
	マツモムシ	
マルカメムシ科	マルカメムシ	
ヨコバイ科	ツマグロヨコバイ	
コウチュウ目	(5科8種)	
ガムシ科	ヒメガムシ	
ゲンゴロウ科	ハイイロゲンゴロウ	
	チャイロマメゲンゴロウ	
コガネムシ科	アオドウコガネ	
	コアオハナムグリ	

表9-2. 確認された昆虫類・クモ類

No. 2

科名	種名 (和名)	備考
コウチュウ目 (つづき)		
コガネムシ科	ヒロウドコガネ	
センチコガネ科	センチコガネ	
ハムシ科	ヨモギハムシ	
ゴキブリ目 (1科1種)		
チャバネゴキブリ科	モリチャバネゴキブリ	
チョウ目 (10科31種)		
イラガ科	ヒロヘリアオイラガ	
シジミチョウ科	ウラナミシジミ	
	ゴイシシジミ	タケノアブラムシを食べる食肉性のチョウ
	ベニシジミ	
	ムラサキシジミ	
	ムラサキツバメ	
	ヤマトシジミ	
ジャノメチョウ科	クロノマチョウ	
シロチョウ科	キタキチョウ	
	スジグロシロチョウ	
	ツマグロキチョウ	II類(県)、IB類(国)
	モンシロチョウ	
スズメガ科	オオスカシバ	クチナシの葉食痕跡及び幼虫確認
	ホシヒメホウジャク	
	ホシホウジャク	
セセリチョウ科	イチモンジセセリ	
	クロセセリ	
	チャバネセセリ	ミゾツバの花を吸蜜
タテハチョウ科	アカタテハ	
	アサギマダラ	渡りをする蝶、冬季南方へ移動
	イシガキチョウ	
	キタテハ	
	タテハモドキ	
	ツマグロヒョウモン	

表9-3. 確認された昆虫類・クモ類

No. 3

科名	種名 (和名)	備考
チョウ目 (つづき)		
タテハチョウ科	ヒメアカタテハ	
	ルリタテハ	
ドクガ科	チャドクガ	
ミノガ科	シバミノガ	
	チャミノガ	
ヤガ科	フクラスズメ	
	フタトガリコヤガ	
トンボ目 (6科11種)		
アオイトトンボ科	アオイトトンボ	成虫越冬するトンボ
	オオアオイトトンボ	成虫越冬するトンボ
イトトンボ科	ホソミオツネントンボ	成虫越冬するトンボ
エゾトンボ科	タカネトンボ	松永氏 10月12日湯谷北部ため池にて記録撮影。
オニヤンマ科	オニヤンマ	
トンボ科	ウスバキトンボ	
	タイリクアカネ	
	ネキトンボ	
	ノシメトンボ	
	マユタテアカネ	
ヤンマ科	カトリヤンマ	
ハエ目 (3科7種)		
ガガンボ科	ミカドガガンボ	
クロバエ科	オオクロバエ	
	キンバエ	
ハナアブ科	シマハナアブ	
	ハナアブ	
	ヒメヒラタアブ	
	ホソヒラタアブ	

表9-4. 確認された昆虫類・クモ類

No. 4

科名	種名 (和名)	備考
ハチ目	(2科9種)	
スズメバチ科	オオスズメバチ	採捕業者よりマーキングされている個体確認
	キイロスズメバチ	
	クロスズメバチ	
	コガタスズメバチ	
	フタモンアシナガバチ	
	スズバチ	
ミツバチ科	セイヨウミツバチ	
	トラマルハナバチ	ツリフネソウの花を吸蜜
	ニホンミツバチ	
バッタ目	(5科14種)	
イナゴ科	ハネナガイナゴ	
	ツチイナゴ	
オンブバッタ科	オンブバッタ	
キリギリス科	キリギリス	
	クサキリ	
	クビキリギス	
	ホシササキリ	
	セスジツユムシ	
	ヒメクダマキモドキ	
バッタ科	イボバッタ	
	ショウリョウバッタ	
	トノサマバッタ	
ヒシバッタ科	トゲヒシバッタ	
	ハネナガヒシバッタ	
クモ形綱 クモ目	(8科18種)	
アシナガグモ科	アシナガグモ	
	チュウガタシロカネグモ	
	ヤサガタアシナガグモ	
キシダグモ科	アズマキシダグモ	
	スジプトハシリグモ	

表9-5. 確認された昆虫類・クモ類

No. 5

科名	種名 (和名)	備考
クモ形綱 クモ目 (つづき)		
コガネグモ科	オニグモ	
	コガネグモ	
	ゴミグモ	
	ドヨウオニグモ	
	ナガコガネグモ	
	ヤマトゴミグモ	
	ワキグロサツマノミダマシ	
コモリグモ科	ウズキコモリグモ	
	ハラクロコモリグモ	
ジグモ科	ジグモ	
タナグモ科	コクサグモ	
ヒメグモ科	オオヒメグモ	
ヒラタグモ科	ヒラタグモ	

(4) は虫類・両生類

2目4科4種のは虫類、2目3科4種の両生類が確認された。

表10. 確認された主な野生生物（は虫類・両生類）

和名	種類
 <p>ニホンアカガエル</p>	<p>県：絶滅危惧Ⅱ類（RDB2014）</p> <p>通常、標高の低い山地、丘陵地が耕地と接する場所に産卵するが、主として産卵場所の悪化、消失により、個体数は減少している。最近で轍跡などの一時的な水溜りに産卵する例が多く、その場所は年ごとに変動し、極めて不安定である。</p> <p>種の概要：赤褐色のスマートなカエルで、体長6cm前後。森林内で生活し、早春に林縁部の溝や湿地に産卵する。卵塊は大型で、幼生は5,6月に変態して上陸する。日本固有種。</p> <p>（出典：福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック2014-）</p>
 <p>ニホンイモリ(アカハライモリ)</p>	<p>国：準絶滅危惧（NT） 県：準絶滅危惧種（RDB2014）</p> <p>山間部の水田域では本種が多く観察されるが、平地では山際の水田域でも確認できない場所が出てきている。本種の成体は年間を通して水中で生活するが、整備された水田では中干の間は水路も完全に排水されるところが多く、また、放棄された水田は数年後には陸化することから、生息できる水域は年々減少している。</p> <p>（出典：福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック2014-）</p>

表11. 確認されたは虫類・両生類

科名	種名(和名)	備考
爬虫綱 カメ目	(1科1種)	
ヌマガメ科	ミシシippアカミミガメ	外
爬虫綱 有鱗目	(3科3種)	
カナヘビ科	ニホンカナヘビ	
クサリヘビ科	ニホンマムシ	
ナミヘビ科	ヤマカガシ	
両生綱 無尾目	(2科3種)	
アカガエル科	ヌマガエル	
	ニホンアカガエル	Ⅱ類(県)
アマガエル科	ニホンアマガエル	
両生綱 有尾目	(1科1種)	
イモリ科	ニホンイモリ (アカハライモリ)	準絶(国、県)

(5) ほ乳類

3目3科3種のは乳類が確認された。

表12. 確認された主な野生生物（ほ乳類）

和名	種類
 <p data-bbox="475 936 571 965">ムササビ</p>	<p data-bbox="874 517 1166 546">県：準絶滅危惧（RDB2011）</p> <p data-bbox="847 555 1414 913">日本固有種で、本州、四国、九州に分布する。頭胴長が約35cm、尾も同じくらいの長さ。ネコくらいの大きさであるが、体重は軽くて、1kgほどしかない。よく発達した皮膜をひろげてグライダーのように滑空する姿は、座布団にしっぽをつけたようにみえる。県内では中央部から南部の山地に生息している。植物食で果実などを好む。また、夜行性・樹上性で、巣としてよく樹洞を使う。そのため、大きな木が残された山裾の神社などにも住んでいる。一方で、大きな木がある森がなくなるとすめなくなってしまう。</p> <p data-bbox="887 922 1409 952">（出典：福岡県レッドデータブック 2011（普及版））</p>
 <p data-bbox="443 1429 608 1458">イノシシの足跡</p>	<p data-bbox="874 992 1398 1021">北アフリカの一部からユーラシアに広く分布する。</p> <p data-bbox="847 1030 1414 1093">日本産亜種は、ニホンイノシシが本州、四国、九州に、リュウキュウイノシシが奄美、沖縄に分布する。</p> <p data-bbox="847 1102 1414 1164">ニホンイノシシの雄成体で、体重50～150kg、頭胴長110～160cm、肩高60～80cm（雌は雄より小さい）。</p> <p data-bbox="847 1173 1414 1420">雑食性で、地表から地中にかけての各種の植物と動物を掘り返して採食する。出産期は春～秋で、通常1年に1回出産するが、春と秋に2回出産することもある。妊娠期間は約120日。産仔数は、ニホンイノシシの野外での平均で4.5頭。初産齢は1～2歳。平均寿命は1歳以下で、若齢での生存率が低い。最長寿命は10歳以下。</p> <p data-bbox="887 1429 1278 1458">（出典：日本の哺乳類 [改訂版] 阿部）</p>

表13. 確認されたほ乳類

科名	種名(和名)	備考
食虫目（モグラ目）	(1科1種)	
モグラ科	コウバモグラ	トンネルを確認
齧歯目（ネズミ目）	(1科1種)	
リス科	ムササビ	準絶（県）
偶蹄目（ウシ目）	(1科1種)	
イノシシ科	イノシシ	足跡を多数確認

(6) 魚介類

2目2科3種の魚類、3目3科3種の貝類、1目1科1種の甲殻類が確認された。

表14. 確認された主な野生生物（魚介類）

和名	種類
 ヤマヒラマキ（ヤマクルマ）	県：絶滅危惧IB類（RDB2014） 1946年～1948年にかけて若杉山および福岡市早良区で採集された記録があるが、それ以後は生息が確認されていない。他県では比較的普通にみられる種であるが、本県では産地が極めて限定的であり、個体数も少ない。（本県で産地、個体数が少ない理由は不明。） 種の概要：殻は平低で、臍孔は広い。殻表は平滑で光沢がある。殻口に円錐状の蓋を有する。山地や里山の落ち葉の下に生息。本州中部以南、四国、九州に分布する。 （出典：福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック2014-）
 サワガニ	サワガニは河川の上流域に生息するが、泥地には少なく、砂礫や小石の多い場所を好む。若い個体は水から出ることほとんどなく、流れの緩やかな水中の小石や落葉の下などに潜んでいる。大型個体は水中ばかりでなく、周辺の湿地にも進出して穴を掘ってすんでいる。早朝と夕暮れ時に活発に活動するが、雨降りの日は昼間も川辺の草むらに出て、一日中動き回っている。 秋も深まって水温が低くなると、翌年の3月頃まで、岩の隙間、あるいは大きな石の下に掘った穴に潜り込んで冬越しをする。大きな石の下には、たくさんの個体が集まっていることがある。（嶺井久勝） （出典：朝日百科 動物たちの地球 無脊椎動物 2）

表15. 確認された魚介類

科名	種名(和名)	備考
脊索動物（魚類）	(2目2科3種)	
カダヤシ目	(1科1種)	
カダヤシ科	カダヤシ	北アメリカ原産の特定外来種
スズキ目	(1科2種)	
ハゼ科	ドンコ	
	ヨシノボリ	
軟体動物（貝類）	(3目3科3種)	
腹足綱（巻貝綱）吸腔目	(1科1種)	
カワニナ科	カワニナ	ゲンジボタルの幼虫の餌。
腹足綱（巻貝綱）原始紐舌目	(1科1種)	
リングガイ科	スクミリングガイ	南アメリカ原産の外来種
腹足綱（巻貝綱）中腹足目	(1科1種)	
ヤマタニシ科	ヤマヒラマキ（ヤマクルマ）	IB類（県）
節足動物（甲殻類）	(1目1科1種)	
十脚目（エビ目）	(1科1種)	
サワガニ科	サワガニ	

7 まとめ

今回の調査では、のべ 190 科 560 種の生物が確認された（表 1 6 参照）。

表 1 6. 調査結果まとめ

	目	科	種
植生・植物		105	399
鳥 類	6	15	21
昆虫類	9	46	104
クモ類	1	8	18
は虫類	2	4	4
両生類	2	3	4
ほ乳類	3	3	3
魚 類	2	2	3
貝 類	3	3	3
甲殻類	1	1	1
合 計		190	560

また、9 種の希少野生生物が確認された（表 1 7 参照）。

表 1 7. 確認された希少野生生物まとめ

	I 類 (国)	I B 類 (国)	I I 類 (国)	準絶 (国)	その他
植生・植物					カラタチバナ【I B 類】 シバハギ【I B 類】
鳥 類			サンショウクイ【I A 類】	ハイタカ	
昆虫類		ツマグロキチョウ【II 類】			
両生類				ニホンイモリ【準絶】 (アカハライモリ)	ニホンアカガエル【II 類】
ほ乳類					ムササビ【準絶】
貝 類					ヤマヒラマキ【I B 類】 (ヤマクルマ)

※ 表中各列のタイトルは環境省のレッドリストの分類を表し、【】内は、福岡県のレッドデータの分類を表す。

今回は、四ヶ地区の調査を行った。調査回数は各分野 1 回程度にとどまったものの、9 種の希少野生生物を含む 560 種の生物を確認できた。

今後、四ヶ地区の自然環境の状況についてさらに把握を進めるためにも、さらなる調査の積み重ねが求められる。

発行日／平成27年3月

編集・発行／大牟田市環境部環境企画課

〒836-8666 大牟田市有明町2丁目3番地

TEL : 0944 (41) 2738 FAX : 0944 (41) 2722